

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	分子腫瘍病理学コース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限(期間)	4年						
養成すべき人材像	腫瘍の組織病理診断に精通するとともに、病理標本を用いて腫瘍の分子診断を推進することができ、治療方針の決定に寄与し得る人材を育成する。加えて、地域医療の現状を理解し、地域に定着する病理診断医を育成する。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位と臨床腫瘍学関連の選択科目6単位以上、合計30単位以上を修得し、4年修了時にはがん研究関連の博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。優れた論文業績を挙げた場合には、3年で修了できる。						
履修科目等	<p><必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)(2単位)、腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)(2単位)、腫瘍病理学実習(8単位)、分子腫瘍病理学演習(8単位)、分子生物学演習(4単位)</p> <p><選択科目> 診断病理学(2単位)、分子病理学(2単位)、分子腫瘍学(2単位)、腫瘍内科学特論(2単位)</p>						
がんに関する専門資格との連携	病理専門医・分子病理専門医(日本病理学会)の研修施設として認定。						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	腫瘍の組織診断・分子診断を有機的に融合したプログラムを用いる。特に、腫瘍内科学教室と共同で、治療方針の決定に貢献し得る病理診断レポートについて実臨床ベースで体験学習を行う。本コースは初期研修医・病理専門研修専攻医を対象とするのは勿論のこと、病理専門医にもさらなる専門性向上の機会を提供するものである。						
指導体制	病理専門医、分子病理専門医、細胞診専門医等からなる専門医チームが外科病理研修指導及び基礎病理研究指導を行う上に、腫瘍内科学教室と協力することで臨床腫瘍学の理解を深められるよう教育体制を取っている。						
修了者の進路キャリアパス	分子腫瘍学に精通した病理専門医として、大学病院やがんセンター、その他がんを診療する病院(国指定もしくは都道府県指定がん拠点病院等)において腫瘍診断をリードする人材となることを期待する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入(養成)目標人数設定の考え方・根拠	大阪府南部地域の5つのがん拠点病院に病理専門医を最低3人ずつ配置することを目標にすると、同地域内の病理専門医数が10人のため今後5年間で5人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。						